

ヘルスケアFM研究部会

部会長 **上坂 脩**

株式会社竹中工務店 東京本社
医療福祉・教育本部 本部長付
認定ファシリティマネジャー 一級建築士



医療はQOL&D追及への解決策

FMとは変化へのマネジメントではないでしょうか。阪神淡路大震災を体験し、東日本大震災の年に名古屋大学病院施設マネジメント研究会での「病院のBCP」講演と、BCP講演・策定支援を継続してきて、サーバントであるファシリティと共に、経営の本質であるヒトにまでかわる必要性を感じています。非日常BCMを支えている日常FM、特にLCMが重要です。BCP講演を端緒に今ではFMの講演にまで広がり、昨夏の医業経営コンサルタント協会研修会では、戦略FMから戦術・日常・非日常FMの流れを明快に整理できました。

医療は絶えず変化を求めており、病院から在宅へ厚生労働省は大きく舵を切替えています。少子高齢多死化・医療費増大・受療施設不足への社会改革だけではなく、本質的な人間が本来持つQOL&D追求への解決策ととらえる必要があります。人はいかに暮らし、働き、死んでいくのか。多様性の中で、各々が個のLCMとしてもう一度見つめ直す必要があります。

FMはファシリティという舞台

今日、健康と病気が日常生活の中で明確に区分できず、がんの寛解であっても暮らし働くことが普通の社会となっています。これからは、病床から患者・病院を考える医療を超えて、在宅の延長となる医療の本質に還るような新たなシステム創造が求められます。例えば、病院にフリーアドレスのサテライトオフィスがあれば、手術翌日からリハビリとして少しでも仕事を手がけ、復帰への近道を迎えられるでしょう。そして、サテライトオフィスが時には集会室となり、非常時は災害対策本部に活用と、ファシリティにもライフスタイルにも、ムリ・ムラ・ムダのない新たな病院が生まれそうです。災害時のトリアージも、将来は、日常から外来診療部が患者の緊急度によってゾーン分けされ、チーム医療によるワンストップサービス提供が実現して、患者の待ち時間が大きく改善されて、在宅と連携した新しい医療と暮らしが実現されるかもしれません。

FMはファシリティという舞台上で、出演者が最高の表現

を実現するための脚本・演出・照明・小道具であり、そして衣装でもあります。これこそ、単なるサービスを越えた、医療者と患者が感動を共有できるホスピタリティFMと言えるのではないのでしょうか。

FM: ファシリティマネジメント

BCP: 事業継続計画

BCM: 事業継続マネジメント

LCM: ライフサイクルマネジメント

QOL&D: 人間らしく満足して生活しているか、そして死を迎えるかを評価する概念



FMの概念図